

【2017年(平成29年)】

10月 木島平中学校 10 人、引率 4 人(日墓村長)がディーキルシュ市を訪問  
永年の交流に際し、ルクセンブルク鈴木繁治日本大使から、LCD校長  
マーセル・クラマー氏に外務省名誉賞が授与される。



在ルクセンブルク日本大使館にて



LCD校舎内で一堂に会して

【参加者の声】

・この訪問交流を通じて、人の優しさに改めて触れることができました。TVなどで、日本人はとても優しいなどと言っていることが多いですが、日本人だけではないということです。この訪問交流で出会った様々な人は、とても親切に接してくれました。例えば、CAさんは英語が上手にしゃべれない私にも、実際に見せてくれたり簡単な単語を使って親切に対応してくれました。また、ルクセンブルクは、とても国際的だと思いました。

## 【2017年(平成29年)】

ルクセンブルクは、たくさんの国に囲まれていることもあり、多くの国が利用する銀行があったり、ルクセンブルク語、フランス語、ドイツ語、英語の4カ国語が話せます。また、昔はいろんな国に占領されていたため、歴史が浅いのでルクセンブルク人だけでなく、いろいろな国の人に住んでいました。実際に、私のホストシスターの両親は、ポルトガル出身だそうです。他にも学校には、お母さんがタイ出身の生徒だったり、教室には、肌の色の違う生徒など様々で新鮮でした。

日本とは違う雰囲気を体感し学ぶことが多い一週間でした。最初は長いと思っていたけれど、あっという間でした。このような体験をさせてくださった村の方々や親、学校の皆さんに本当に感謝です。

・私は、この訪問交流を通じて学んだことは、積極的に伝えようとする気持ちが大切だなと感じたことです。正直、ルクセンブルクの人の方がはるかに英語力がありました。私は、まだまだだなと思うことばかりでした。しかし、その分、自分をもっと英語が話せるようになりたいという気持ちが強くなりました。また、人と人とのつながりの素晴らしさも感じました。住んでいる国が違っても、話す言語が違ってもお互いに伝えたいという気持ちがあれば、わかり合えると思いました。

他に、食文化の違いに驚きました。2日目のルクセンブルク大使館での昼食以外では、ご飯を一口も食べていません。とてもつらかったです。生野菜のサラダもありませんでした。水もルクセンブルクは、主に硬水なのでいつも軟水を飲んでいる私には、あまり馴染めませんでした。逆にそのようなことも新鮮でした。

外国と日本との文化の違いに触れながら、改めて、日本に住んでいるありがたみを感じることができました。